

# デジタルサイネージ アクションプランの進捗(案)

## (デジタルサイネージの機能の拡大)

### 【災害情報やオリンピック等情報などの一斉配信】

災害等の緊急時における災害情報、避難所情報等や、オリンピック・パラリンピックの情報等をデジタルサイネージから一斉配信

### 【個人属性に応じた情報提供】

- ・ 訪日外国人に対して、観光情報や競技情報、災害情報等を多言語で情報提供。サイネージにかざしスマホタブレットに自国語で表示
- ・ スマートフォン等の他のデバイスとの連携等により、個人の属性に応じた双方向による情報提供、Wi-Fiスポットとしての活用、美術館や博物館、レストラン等のクーポンの入手等

### 【4K・8K高度な映像配信・パブリックビューイング】

- ・ 開催地東京のみならず、地方、海外においても、オリンピック・パラリンピックの感動（高精細映像・音響等も含めた競技会場の情報を伝送し、中継会場に応じた競技の場の再現による超高臨場感観戦体験）を共有できる場を提供(※)

※メディア権保有者との協議が必要

## 平成27年度の事業進捗

### 【推進体制】

- ・ (一社)デジタルサイネージコンソーシアムの協力を得てデジタルサイネージワーキンググループにおいて、「デジタルサイネージシステム共通仕様」を検討。
- ・ デジタルサイネージワーキンググループの下に、「高度な映像配信サービスサブワーキンググループ」を開催。

### 【主な取組】

- ・ 平成27年9月から、災害時の一斉配信、スマートフォン等との連携、個人の属性に応じた情報提供等を実現するため、インターネット技術を活用したデジタルサイネージシステムの仕様化に向けて検討を開始。
- ・ 平成27年10月、国際標準化団体W3C TPAC 2015において、我が国が主導するWebと連携したデジタルサイネージの表示技術等に関する国際標準化に向け、Web-based Signage BG内でWG設立を合意。
- ・ 平成27年10月から、4K・8Kやデジタルサイネージ等を活用し、超高精細、超高臨場感を実現するパブリックビューイングやライブビューイング等の地方創生にも資する映像配信環境の実現に向けた方策の検討を行うため、「高度な映像配信サービスサブワーキンググループ」を開催し、検討を開始。

### 【実現イメージ】



## 平成28年度以降の予定

### 【スケジュール】

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
国内標準化	W3C ITUへの標準化活動			デジタルサイネージ等を通じた情報発信等の実現	
	クラウド技術を活用したデジタルサイネージ相互運用性を検証		クラウドシステム構築・相互接続の実現		
	高度な映像配信サービスの実現に向けた取組の実施				